

Interview

会計事務所 インタビュー

各種専門家を揃え、ITによる業務効率化に
いちばやく取り組まれている

**アトラス総合事務所の
井上 修様と田之畑 龍一様、井上 光様に
インタビューを行いました。**

profile

アトラス総合事務所 代表

井上 修様

アーサーヤング公認会計士共同事務所、興亜監査法人、山田公認会計士事務所、若下敏男税理士事務所を経て平成3年に独立開業、井上公認会計士事務所を開設。その後、平成17年7月にアトラス総合事務所を開設。PC黎明期より会計ソフトの導入を積極的に進めてきた。著書「個人事業・自由業者のための会社をつくるメリット・デメリット 本場のところズバリ!」(すばる舎)他

アトラス総合事務所 税理士

田之畑 龍一様

歯科医業に特化した個人会計事務所にて、月次会計監査、各種税務申告書の作成、医療法人設立サポート等の実務にあたる。税理士試験合格を機にアトラス総合事務所に入所。現在は法人の会計・税務を担当する傍らクラウドを利用したバックオフィスの効率化サポートを推進している。

アトラス総合事務所

井上 光様

金融機関にて窓口の後方支援、商社にて建材等の法人営業を経験した後、アトラス総合事務所に入所。現在は会計・税務の担当及び法人設立のサポートを行う。社内でいち早くクラウド型会計ソフトの導入に着手し、クラウドを用いた振込代行の省力化・新たな仕組み作りを行っている。



田之畑 龍一様

井上 修様

井上 光様

ITにできることはITに任せ、品質を維持しつつ、 いかに短時間で多くの件数をこなすか

— アトラス総合事務所の概要、特徴を教えてください

井上修様 当事務所は職員数35名で、「総合事務所」という形態を探っている点が特徴です。資格者は税理士11名、公認会計士1名、社会保険労務士3名、司法書士4名、行政書士2名が在籍しています。

各種専門家が1つの事務所に在籍しており、お客様にワンストップでサービスを提供できる体制を築いています。例えば、会社設立のご相談にいらっしゃるお客様との打合せにも法務部門のみならず、税務部門および労務部門の担当者が同席するなど、会社設立後の課題も見据えたお話しができるよう心がけています。

— 窓口が一本化されていけば、お客様にとっても相談しやすいですし、+αのアドバイスが受けられることはうれしいですね。「総合事務所」という形態を志向されたきっかけは何でしょうか

井上修様 平成3年に前身の事務所を開設、独立したのですが、当初から所謂「会社設立スキーム」をサービスとして打ち出していました。業界でも先駆けてこのサービスの提供を始めたこともあり、幸い多くのお客様から問い合わせを頂戴したのですが、すぐに課題も見えてきました。

当時はまだ小所帯で事務所の運営を行っていたこともあり、お客様から問い合わせをいただくとまずは司法書士に連絡、税務の相談を受けている中で社会保険の話題になったら社会保険労務士に連絡…というように、自分が橋渡し役の立場になってしまっていました。これは単純に仕事の仕方として効率的ではないし、お客様を待たせてしまうことになります。そこで、「専門家を一箇所に集めてしまえば効率化が図れるのではないかと」と考え、平成17年7月に税理士、公認会計士、社会保険労務士、司法書士、行政書士の各種専門家が揃ったアトラス総合事務所を開設しました。

— 採用に課題感をお持ちの事務所様が多いと聞きます。会計税務以外の専門家も揃えるうえで、採用活動の工夫、独自の教育・研修制度などございますでしょうか

井上修様 採用について特別なことはしていませんし、教育・研修制度も独自の体系があるわけではありません。ただ、所内の雰囲気採用、教育の両面で重要と考えています。例えば、各チームに裁量を持たせることで、新しく入ってきた人をチームで育てるという風土があります。また、キャッチアップを早めるために情報共有を徹底しています。チームリーダーを集めた会議を毎日行っていますので、そこで決まった方針など、リーダーからチームメンバーにすぐに共有できるようにしています。

田之畑様 所員としては、「チャレンジできる」環境が素晴らしいと思っています。例えばクラウド会計などの新しいサービスが出たときに、入所したばかりの担当者が「やってみたい!」となかなか言い出せないものと思いますが、当事務所ではどんどん挑戦させてもらえます。もちろんビジネスですから収益性は考えなければなりません、さまざまな経験を積める環境であることは間違いありません。当事務所を退職した元所員が、「いい事務所だよ」と就職活動中の税理士に勧めてくれたという話がありました。それも自主性を尊重してくれる環境のおかげではないかと思えます。

井上修様 先日も、元所員の紹介で興味を持ってくれた税理士の入所が決まりました。人材採用に苦労している方が多いとのことですが、いま在籍している所員の満足度を向上させることが、未来につながるかもしれません。「どうせ働くなら気持ち良い職場で働きたい!」と誰でも思いますから。

— 所員の満足度向上にとって、業務効率化の実現も重要な要素だと思います。そこで効果的なのはITサービスの活用ですが、きっかけは何だったのでしょうか

井上修様 35年前の23歳の時に、当時一般発売されたばかりのパソコンを購入するなど、ITサービスに対し



での抵抗はそもそもありません。元々効率化を求める性分でしたしね。会計業界には、専用機からインストール型の会計ソフトへ、手書きの申告書から電子申告へ、という流れがありましたが、これは当たり前のことだと思っています。機械に任せることで、間違いもないですし、我々も効率的な仕事ができるようになりますから。

また、オフィスを構える渋谷はIT関連の会社も多く、お客様からITサービスについての情報をいただくことも多いです。ITに詳しい、合理的な考え方を好むお客様が多いことも、ITによる業務効率化を進められる要因の1つかと思えます。また、ITからは離れますが、渋谷駅から徒歩圏という立地のおかげもあり、お客様がオフィスにお立ち寄りいただくことで訪問回数が減らせることも、効率化に一役買っています。効率化を推進してきたおかげで、所員1人あたりの担当顧問先は30~40件、多い所員では50件を超えています。「ITにできることはITに任せ、品質を維持しつつ、いかに短時間で多くの件数をこなすか」が、当事務所のテーマとなっています。

「MFクラウド会計」の導入にあたり 「直接入力しないこと」を意識付け

— クラウド会計導入までの経緯を教えてください

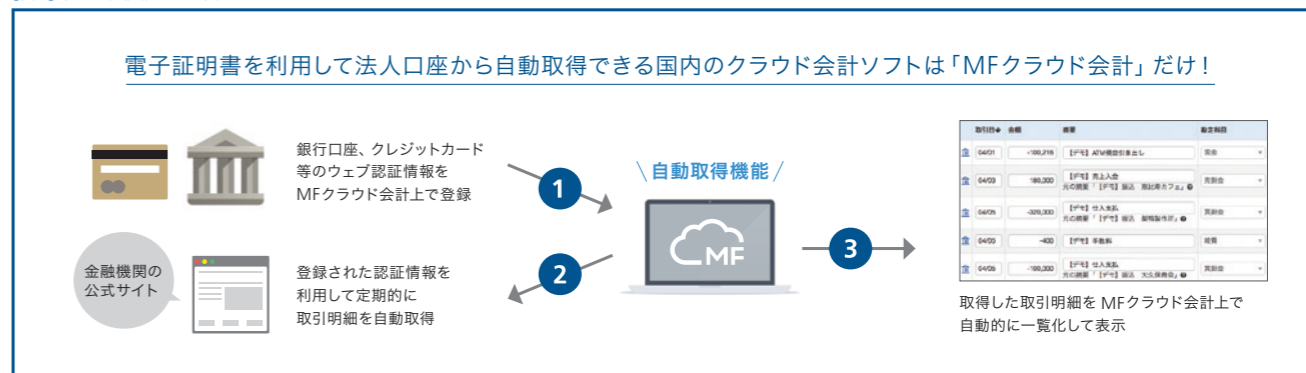
井上修様 2年前です。お客様から「先生のところはクラウド会計使っていないの?こんなに便利だよ」と言われたことがありました。先程申し上げたとおり、当事務所にはIT関連のお客様が多く、その後も同様の問合せを受けておりました。事務所によっては、1つの会計ソフトしか対応しない事務所もあると聞きますが、当事務所は昔から、お客様が使いたいソフトにはできる限り対応してきた背景もあり、導入しないという選択肢はありませんでした。

田之畑様 実際にクラウド会計の導入検討を開始したのは2年前。マネーフォワード以外のクラウド会計ソフトベンダーに話を聞きに行ったり、WEB上でのサービス案内、デモンストレーションを見たりと情報収集をしていましたが、従来の会計ソフトとあまりにも仕様、構造が異なっていたため、一旦導入は見送りました。それから1年後、「MFクラウド会計」のデモンストレーションを見る機会があったのですが、当事務所がメインで使っていた会計ソフトと感覚的に似ている部分も多く、ベースとなる使い勝手は悪くなさそうだなと感じました。加えて、**自動で金融機関から明細を取得する口座連携機能【図1】**は衝撃的で、すぐに導入しよう決めました。

— 導入にあたっての苦労などありましたでしょうか? また、導入をどのように進められましたか

田之畑様 最初はやはり戸惑う所員が多かったですね。会計ソフトの置き換えと考えてしまうと、クラウドサービス特有の挙動の遅さは「入力時間が増える」と直感的に感じさせてしまいます。そこで一番大事なのは

【図1】取引明細情報を自動取得



最初の意識付けです。当事務所では「今までは入力の方そのものが違います。今までのやり方は一旦忘れましょう」と所員に伝えるようにしています。

会計ソフトの置き換えと考えてしまうと、「クラウド会計を導入しても、実際の作業手順は変わらない」と考えますよね。すると、「MFクラウド会計」でも今までと同じように仕訳を入力するのだというイメージが拭えず、挙動の遅さをそのままネックと捉えてしまいがちです。所員の意識を変えるため、「とにかく極力入力しないんですよ」という意識付けを続けることが大事だということです。銀行口座やクレジットカードを自動連携させることはもちろん、連携できないのであれば、直接会計ソフトに入力せずエクセルフォーマットに入力したものをアップロードするなど、とにかく「直接入力しない」というところを所員にまず理解してもらうことに注力しました。意識付けをしただけで導入できれば、お客様1件当たりの所用時間は確実に削減できますから。



— クラウド会計を導入しているお客様にはどのような方がいらっしゃるでしょうか? また、お客様への導入の勧め方、コツを教えてください

田之畑様 IT関連の会社が全体的に見て多いのですが、最近では飲食、小売、理美容業のお客様への導入が増えてきています。勧め方のコツとしては、「会計ソフトに入力する作業が削減できて便利ですよ」ではなく、「経理業務が自動化され、手作業がこれだけなくなりますよ」と、お客様の業種や規模に合わせてクラウド型のレジサービスや、スキャナと一緒にご案内し、導入によるメリットを具体的にイメージしてもらうようしています。

IT業界以外のお客様ですと、エクセルやパソコンそのものに不慣れな方もいますので、そういう方にはスキャナの利用をお勧めします。クラ

ウド会計と併せて、領収書や通帳の仕訳入力代行サービスを紹介するもので、「領収書や通帳をスキャナに通すだけで終わりますよ」「領収書を紙に貼る必要もなく、管理も楽になりますよ」とできる限りシンプルな手順で、利便性をお伝えしています。スキャナの購入をその場で決断されるお客様も多いです。このような経理業務自動化のコンサルティングをサービスとして提供し、月額報酬とは別で報酬もいただいていますから、当事務所としてもメリットがあります。

簿記の知識が不要な「取引明細フォーマット」で、「製販分離」の取組みを推進

— MFクラウド会計導入による効果を具体的にお伺いしたいと思います。MFクラウド会計の（銀行口座他、各種明細データの）自動連携機能により、どの程度作業時間が削減できましたか

田之畑様 預金取引の多い方など、作業時間が1/6になっているお客様もいらっしゃいます。自動仕訳ルールを上手く作ればさらに削減効果が望めますし、使い込むことによってどんどん作業時間は短縮できるものと思います。

— 自動仕訳ルールの作り方はどのように指導していますか

田之畑様 自動仕訳ルールをキレイに整理することがミソですので、お客様にもその重要性をお伝えしています。また、最初の一ヶ月くらいは事務所側で記帳を行い、自動仕訳ルールを整えてからお客様にお渡しする方法をお勧めしています。自動仕訳ルールは摘要欄に基づいて判定されますので、「摘要そのものではなく、摘要内のキーワードの有無で自動仕訳ルールが判定されるようにする」など、「MFクラウド会計」ならではのテクニックがありますから。このようなテクニックは、当事務所で共有することはもちろん、お客様にもお伝えするようにしており、非常に喜ばれますね。

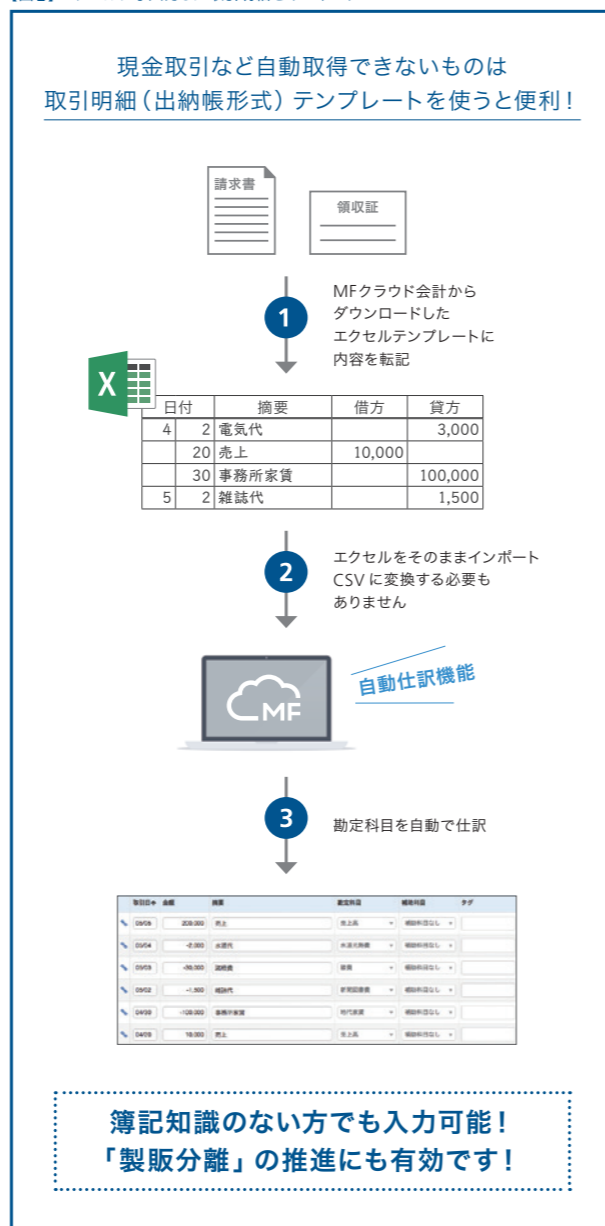
— 事務所内のオペレーションに変化はございましたか

田之畑様 「直接入力しない」ということを念頭に置いているため、自動連携できないものについては直接入力するのではなく、MFクラウド会計が用意しているエクセルフォーマット、とくに勘定科目の入力を必要としない「取引明細」フォーマットへ入力し、そのファイルをインポート【図2】するというオペレーションに変更しました。この方法であれば、自動取得された明細と同じように、インポートした明細に自動仕訳ルールが適用され、MFクラウド会計のメリットを最大限活用できます。

ちなみに、「取引明細」フォーマットの利用は当事務所の記帳業務効率化にも貢献しています。「勘定科目の入力が必要がない＝簿記の知識が不要」ということから、パート勤務の方などに入力業務をお任せすることができ、「製販分離」の取組みを進められたと思っています。

自計のお客様へも、簿記知識の有無に関わらず、自動連携ができないものに関しては「取引明細」フォーマットに入力してするよう指導しています。誰でも使えるということは、例えば担当の方がお辞めになる場合にも引き継ぎが容易であるということですので、お客様にとってもメリットだと思います。

【図2】エクセルに手入力した取引明細をインポート



— 自動連携ができないものも入力業務は効率化できることですが、ネットバンキングを利用していないお客様もいらっしゃるのでしょうか

田之畑様 そうですね。ただ、お客様に「ネットバンクを使うとMFクラウド会計に自動で明細が取り込まれて便利ですよ」とご案内すると、多くの方は切り替えをさせていただきます。銀行によってさまざまなプランがあり、月額の基本料金にも差はありますが、「（MFクラウド会計との自動連携ができる）明細が閲覧可能な一番安いプランでいいですよ」とお伝えしているので、ハードルは高くはないのかなと感じております。

所内のオペレーションを見直す必要もあるが、それ以上に得られるメリットも大きい

— MFクラウド会計だけでなくMFクラウド請求書などシリーズでお使いになっているお客様もいらっしゃると聞きました

田之畑様 「MFクラウド会計」と「MFクラウド請求書」を併用することで、売掛金の仕訳が自動で生成されますから、シリーズならではの長所

だと思っています。無料のクラウド型請求書作成サービスもありますが、「MFクラウド」のボタン一つで連携できるという機能は大きなメリットで「多少お金を出してもいい」というお客様もいらっしゃいます。これは請求書だけでなく、「MFクラウド給与」や「MFクラウド経費」にも言えることですね。

— MFクラウド会計、MFクラウドシリーズについて、評価やご意見をいただけますか

田之畑様 「MFクラウド会計」を使うメリットは、「自動連携、自動仕訳ルールによる入力業務効率化」と「エクセルフォーマットの活用による手入力の削減」、この2点に集約されると思います。導入に当たり、所内のオペレーションから見直す必要も場合によっては出てきますが、それ以上のメリットを得られるものと思います。

また、サービス開発、営業担当の方の対応には非常に満足しています。先日、サービスの仕様について当事務所の要望を営業担当の方にお伝えしたのですが、次の日には改善に着手され、数日後には要望どおりの仕様が実装されるということがありました。この従来型とは一線を画す改善スピードに感心したことはもちろんですが、自分達の要望が反映されていると実感できるのは、非常にうれしいですね。

要望をお伝えしたときのレスポンスが速いだけでなく、真摯に対応していただけていると感じます。「こういうことでできませんか？」と聞くと、「いまは対応はしていません」で終わってしまう会社が多いのですが、マ

ネーフォワードの場合、まず「確認してみます」と一旦開発担当の方に聞いていただけて、現時点で対応していなければ「いつまでに対応します」と前向きなお返事をいただけることが多いと感じます。

流れに従って対応を怠らなかった事務所と、そうでない事務所の収益力は雲泥の差に

— 最後になりますが、会計業界やアトラス総合事務所の今後の展望についてお聞かせください

井上修様 先にも申し上げましたが、専用機からインストール型の会計ソフトへ、手書きの申告書から電子申告へという大きな流れが会計業界にはあり、このシステムの進化により、会計事務所の業務は効率化が図られ、生産性の向上を続けてきました。この流れに追いついていけるかどうか、事務所の収益力の差になってきたということです。

クラウド会計の登場は、まさにこの大きな流れです。流れに従って対応を怠らなかった事務所と、そうでない事務所では、収益力に雲泥の差が現れると思います。また、お客様にしても、自分達の業務を楽にしてくれる新しい便利なサービスを求めるのは当然ですので、会計事務所からも、積極的な情報提供、提案をすべきです。

専門的なコンサルティングなどお客様への付加価値提供は大切ですが、会計事務所の日常業務の多くを占めているのが記帳業務です。まずは記帳業務をいかに効率化できるかを突き詰めていきたいと考えています。

「Fintech」という言葉が注目を浴びていますが、今後マネーフォワードが、我々もびっくりするような連携をするのではないかと期待していますし、我々も引き続きお客様の利便性が高まる仕組みをよく理解し、提案していきたいと考えています。

アトラス総合事務所

平成17年7月、公認会計士・税理士、社会保険労務士、司法書士、行政書士が在籍する総合事務所として創業。創業当初よりITの活用による企業のバックオフィスをサポートし、常にお客様の立場に立ったサービスと明確な料金設定で、税務から労務、法務に至るまで法人・個人事業経営を総合サポートしている。

